

KIDS DESIGN CONCEPT BOOK 2018

キッズデザイン
コンセプトブック 2018

2030年までの

「持続可能な開発目標(SDGs)」が
話題になっている。

SDGsは17のゴールと

169のターゲットから構成され、
地球上の誰一人として取り残さない

(leave no one behind)ことが

謳われている。

私たちの未来は、今を生きている、

そしてこれから生まれてくる、

子どもたちである。

コンセプトブック2018では、

「2025年、キッズデザインのある街で」
と題し、子どもや子育てに



CONTENTS

「第12回キッズデザイン賞」に寄せて 04

巻頭特集

2025年、キッズデザインのある街で 05

第12回キッズデザイン賞

受賞作品紹介 13

今年の審査を振り返って 14
益田文和(審査委員長)×赤池 学(副審査委員長)

最優秀賞 16

優秀賞 18

奨励賞・特別賞 26

キッズデザイン賞(入賞) 37

受賞団体名索引 76

審査委員 78

実施概要 81

キッズデザイン協議会概要 85

やさしい社会が当たり前になり、
多様な生き方が各地域で実現されている、
手の届きそうな、
少しだけ先の未来の姿を描くという、
新たな試みを行なった。

それは、
子どもたちと共に未来をつくり、
子どもたちに未来をつくって欲しいという
私たちからの願いでもあり、
決意でもある。
世界中の人々が、
それぞれのキッズデザインのある街で
子どもの笑顔に囲まれていることを
願っている。



「第12回キッズデザイン賞」に寄せて

「第12回キッズデザイン賞」表彰式の開催にあたり、受賞されました皆様に、心より御祝いを申し上げます。

今回は、全体で468点もの応募があり、新しく設けられた「アプリケーション・サービス」カテゴリーにも多くの応募があったと聞いております。キッズデザインの理念に賛同し、応募いただいた多くの方々にも敬意を表したいと思います。

いつの時代も、豊かで魅力的な社会であるためには、生き生きとした子どもたちが欠かせません。

日本は、今、少子高齢化という、国難とも呼ぶべき危機に直面しています。国民の皆様が不安に感じている、子育ての問題を解決する。安倍政権は、待機児童の解消や子育て世代の負担の軽減など、未来を見据えた新たな国創りのため、子どもたちに大胆に投資していきます。また、テレワークなどの柔軟で多様な働き方を推進する「働き方改革」を断行し、仕事と子育てを両立できる環境整備も進めていきます。

キッズデザイン賞は、設立以来、子どもたちの健やかな成長につながる社会環境を創出するために、2700点を超える、数多くの優れた作品を顕彰してきました。これらの作品の一つ一つに込められた想いは、社会をより良い方向に変えていくための灯です。

子どもたちは我が国の未来そのものです。本日ご来席の皆様には、未来を担う子どもたちが夢を描ける社会の実現に向け、時代のニーズに応える取組を、今後も一層推し進めていただくことを期待しています。

本日は、誠におめでとうございます。



平成30年9月25日
内閣総理大臣

安倍 晋三

※ このメッセージは平成30年9月25日に開催しました
第12回キッズデザイン賞 表彰式時にいただいたものです。

2025年、 キッズデザインの ある街で

時は2025年。決して遠くない未来であるこの年に
子ども、子育ての環境はどう変わっているか。
あるいはどう変わって欲しいのか。その仮説を交えた物語である。
プロダクツからサービス、制度からコミュニティまで
あらゆるモノとコトが子ども目線でデザインされている社会。
それを子育て中のある家族の暮らしの風景から見てみる。



2人の子ともと都心から移住して暮らす夫婦、
妊娠中の妹夫婦、地域で活躍する妻の両親の2025年の物語。

主人公の夫婦は都心の
大手企業に勤めていた
が、2人目が生まれたの
を機に、夫の実家に近
い、自然豊かな地方都市
に移住。妻もこれまでの
経験を活かせる地元
の企業に再就職した。
夫の妹は現在妊娠中で、
夫婦とも都心の大手企
業にそれぞれ勤務。
もうすぐ産休の予定だ
が、子育てしながらの仕
事のやり方について、い
くつかの選択肢を考え
ている。
妻の父親（義父）は元エ
ンジニアで2年前にリ
タイア後、専門知識を活
かして地元企業の技術
顧問として週2回ほど
顔を出すほか、地元の小
中学生向けサイエンス
スクールで講師も務め
る。母親（義母）は趣味を
活かしたガーデニング
教室を開き、子どもが巣
立って広くなった一軒
家の1階を改装したス
ペースで、近所の奥様
に教えている。



家事も仕事も 会話も穏やかに、 ある日の家庭の風景

子どもを連れての
外出もとても便利で
安心になった
場所を選ばない勤務で
仕事のしかたも
変わってきた
夫の家事も
手慣れたもの
時短がもたらす
至福の時間



フレキシブルな仕事のやり方と楽になった家事のおかげで、
子どもと過ごし夫婦で語る時間が生まれる。

今

日は午前中、子どもの
検診へ行く予定。妻
の会社のシステムで午前
中を休みとし、午後は在宅
ワークの申請をして、企画
書を仕上げる予定だ。明日
は朝一番で会議があるの
で、子連れ出勤で子どもと
一緒に出社するつもりだ。

検診への移動はベビーカーを使い、そのまま乗り込める子育てサポートゾーンのある電車で病院の最寄り駅へ向かう。駅からはシェアリングのコンパクトカーで移動、ベビーカーも積み込める。スマートフォンでタッチするだけで、電車もシェアカーも自動課金なので便利だ。検診の予約や準備もネットのサービスで済ませている。待ち時間はほとんどなくて済む。一昨日の夜、急に熱が出て心配したが、「医者や専門家に相談できるオンラインサービス」で相談してことなきを得た。

検診が終わり、自宅へ戻る前に買い物。駅に近いショッピングモールで食材と来週会う両親へのプレゼントを購入した。途中、ベビー休憩室でホットウオーターサーバーのお湯を使っ

てミルクもつくった。ゆつたりとしたベビー休憩室は夫婦で使えるスペースもあり、男性の姿も多い。初めてきたモールだったが、館内のエレベーターや休憩室の場所はモバイルで瞬時にわかったので迷うことはなかった。

自宅は子育て世帯向けにリノベーションされた物件だが、庭も広く屋外バーベキューもできるほどだ。上の子どもがまだよちよち歩きだった時期は都心のマンション住まいで、通勤には便利だったが少々手狭な空間だった。妻が思い出すのは、子どもが興味本位で電気ケトルのコードを引っ張ったときのこと。幸い、転倒してもお湯がこぼれない構造だったのでやけどをせずに済んだが、初めての子どもだったのも、この年齢でこんなことまでできるんだ、と驚きとともに感動を味わったことだ。

妻

は午後の在宅ワークでどうしても企画書を仕上げなければならぬ。夫は午後の打ち合わせが終わればそのまま帰れると昨日の夜、言っていた。今日は午後の授業は2コマ



ベビーカーや幼い子どもを連れての移動もスムーズに。
気兼ねなく乗れるモビリティが増えた。

なので、長男の学校が終わるのが15時半くらい。夫も17時には家に着くから、晩飯は夫がつくる。近隣の農家の方からいただく新鮮な野菜は家族みんな大好きだ。最近では子育て支援アプリに離乳食メニューも豊富にあるので、野菜を使った離乳食に凝っている。夫が帰宅して、早速調理を開始。食材を準備するだけで

のレンジグリルや野菜の鮮度を保つ冷蔵庫でオートコ飯もかなりのものだ。
軽く片手でも使えるハンディなクリーナーは、食べこぼしの多い子どものいる食卓には欠かせない。最近では長男も手伝ってくれる。リビングの一角にある、おもち置き場の掃除は自分で掃除するのが我が家のルール。そのうち下の子もおもちで遊びだすだろう。そ

の時に赤ちゃんは手本を見せなくては。

食事のあとは洗濯だ。明日また使うと言っていたから、小学校の体操着を洗っておかなくてはならない。このあたりは静かでそれほど周りを気にすることもないが、都会に住む妹夫婦は夜間の洗濯の音を気にして、静粛性の高い洗濯機を使っている。吸湿性がある壁材を使ったランドリーは、洗濯後、室内干しをして翌朝乾いたシャツをそのまま着て出勤できる、と嬉しそうに語っていた。

子 どもたちが寝た後、妻も企画書を仕上げた。

寝るまでに時間ができたので、来月に迫ったゴールデンウィークの予定を二人で話し合うことにした。子ども連れの旅行パックも多様なラインナップがあり、航空機や列車も乳幼児同伴用の車両が設けられていて、周囲に気兼ねなく乗ることができる。ホテルや旅館も子どもと一緒に宿泊するためのさまざまな設備やサービスが充実している。妻は海があるところへ行きたい、と以前から言っていたので、離島へ行くことに決めた。



僕の好きな場所は、 世界につながる 入り口

面白いと思ったこと
美しいと感じたもの
いつでもどこでも
発見できる
情報化が進んでも
世界にはまだまだ
知らないことが
たくさんある
それを知ること
で
もっと知りたくなる

2 年生の長男は義父の影響もあって、大の科学好き。こちらへ引越してからは、昆虫採集に夢中だ。ハンデイの顕微鏡とモバイルカメラを持って、珍しい昆虫を見つけては写真を撮っている。写真や動画はSNSへアップする。今ではちょっとした昆虫博士として、SNSでも話題になっているほどだ。

ある日、ネットでこの地域の昆虫検索をしていると、10年前までこの辺りで普通に見られた蝶が今ではほとんど見られないことに気づく。夫にそのことを話すと「温暖化の影響かもしれない」という。週末に出かけた科学館でインターネットとリンクした、巨大



昆虫探しは長男のお気に入り。
必要な情報はいつでも手元の端末で調べることができる。

なデジタル地球儀に出逢った。地球規模で温暖化が進んでいること、その原因は暮らしの身近なところにあることも教えてもらった。

地元のサイエンススクー
ルは科学と社会、環境など
複数のテーマを統合的に学
べるサードプレイスだ。長
男も週に1回通っている。
タブレット端末で「地域の
昆虫」を検索すると、多様な
種類の昆虫とその主な生息
地が表示される。お気に入り
の昆虫を探しに森へ出か
けることもしばしばだ。そ
の際もGPSを使った見守
りサービスでどこににいるか
が両親の手元ですぐわかる
ため、家族も安心できる。

最近ではブロックを組み合
わせるプログラミングツー
ルで、家の近くに集まる昆
虫を24時間撮影できるキッ
トをつくった。もちろん元
エンジニアの義父の手ほど
きを受けながら完成させた
ものだ。長男がお気に入り
の触感や温湿度を計測する
センサーを搭載したブロッ
クを組み合わせ、昆虫がそ
の周辺に近寄ると自動的に
映像を撮ることができる。
温度センサーを使えば、季節
や気温の違いで昆虫の動き

がどう変化するかも観察で
きる。この成果を今度、SNS
上で開催されるグローバ
ルサイエンスイベントで発
表するつもりだ。

近くにメーカーの大型工
場があることもあって、学
校にはアジアや欧米、最近
はアフリカから来た同級生
がいる。彼らにも今度サイ
エンスイベントで発表する
予定の昆虫レポートを多
言語化ツールで翻訳し、見
てもらった。海外にはもっ
と大きく、珍しい昆虫がた
くさんいる、と言っていた。
海外の昆虫のことももっと
知りたい、と長男は思った。

S D G s (持続可能な開
発目標)が制定された
のは今からもう10年前の話
だ。長男はまだ行ったこと
のない海外の国から来た同
級生から、その両親が子ども
だった時代にあった話を聞
いた。学校に行きたくても
行けなかった友達のことや
環境の悪化で健康被害を受
けた子ども、悲しい戦
争に巻き込まれた家族のこ
と、今の暮らしからは想像
もできないような現実がそ
こにあったことを、長男は初
めて知った。S D G s がど
ういうものなのか、長男には

まだわからなかったが、昆
虫だけではない、知らない
世界で起こるさまざまな出
来事をもっともつとあるの
では、と時強く思った。

いつも思うのは海外の友達
は、僕はこう思う、とはつき
り言うことだ。多様性を理
解し、貧困や飢餓の撲滅、衛
生や教育、ジェンダーの平
等を謳うS D G s の達成目
標年まであと5年。これか
らの時代を担う子どもたち
には、いつの間にかその土
台となるような考えが芽生
えているのかもしれない。

い よいよSNSのサイエ
ンスイベントが開かれ
る日が来た。自分の研究や
レポートをアップロードし、
海外の有識者や子どもたち
が面白いと思った作品に投
票する仕組みだ。皆、工夫を
凝らした構成で見えて楽し
しい。長男も自分で撮影し
た昆虫の動画や写真、日記
をアップロードした。家の
近くの昆虫の生態記録の評
価は上々で、いくつもの国
の友達から「good!」の
声が届いた。すると、アメ
リカの同じ小学生から、
「今度、世界の虫たち
のドキュメンタリー
映画をつくらうと



グローバルな会話はすでに日常にある。
さまざまな意見や現実があることも知る。

思っているんだ、よかった
ら参加しないか」と誘いの
メールが舞い込んだ。君の
研究の動画も使わせてくれ
ないか、という依頼だった。
でもそのためにはもう少し
調査を続ける必要がある
そうだ。科学館のサイトか
らネットを通じて、昆虫学
者へ直接、質問ができるサ
ービスで、この昆虫の巣や食
べ物などのことを教えても
らった。早速、その動画を撮
りに行き、アメリカの友達
に送った。ウェブ上でやり
取りできるクリエイティブ
ツールがあれば、動画編集
も多言語化も簡単にでき
る、と友達から聞いた。ど
んなドキュメンタリー映画
ができるのか、今からワク
ワクしている。



地域で育てる子どもが、 地域と人を育てる

この街の魅力を
話してくれる
なつかしい料理の味を
教えてくれる
やがて時代の
主役になるこの子たち
世代を超えて
立場を超えて
共に育てることで
街も大人もまた
活き活きとなる



子どもの健康や病歴は
データベースでどこでも共通に見られ、
急な対応の際にも安心だ。

この地域も5年ほど前までは少子高齢化で人口が減り続けていたが、ここ数年で子育て世帯の移住が増え、施設やサービスも充実してきた。かつて分譲地として開発されたこの地域では、30年ほどが経過した後高齢化が進み、ストック住宅問題が取りざたされた時期があった。人口が減っていくなかで、ストック住宅を子育て世帯向けにリノベーションし、金利の優遇制度も合わせてPRをしたところ、多くの若い世帯の流入に成功したのである。子育てしやすい街をテーマに、自治体も取り組みを推進してきた。特に3人以上の子どもを持つ世帯には優遇制度があり、公共交通や施設利用、日用品や子ども用品の割引が適用される。子どもが生まれた時には「子育てギフト」として、哺乳瓶や抱っこ紐、産着などの育児用品がプレゼントされる。ウェブから好きなデザインを選べるので、組み合わせを考えるのも楽しい。

こうした背景もあって、地元企業への転職組も増えつつある。地元企業はフレ

キシブルな勤務形態が根付いていて子育てにも理解があるのも、待機児童や小4の壁の悩みはほとんど聞かえてこない。妻のように勤務時間を融通したり、自宅以外で仕事をすることも頻繁にあるので、気軽に仕事ができる公共施設内の共有スペースやカフェも街のあちこちに見られるようになった。

子 育て支援サービスも公共、民間とも充実している。なかでもITを利用したタイムリーなサービスは共働き世帯の強い味方だ。一時預かりや病児保育もフレキシブルに対応をしてくれるので、仕事の繁忙期には頼もしい。どちらもスマートフォンアプリサービスで、「預けたい人」と「受け入れ可能な人や施設」を瞬時にマッチングしてくれる。子育て経験のある女性や元保育士がスタッフとして働いているので、安心して預けることができる。子どものかかりつけの病院やアレルギーや既往症記録、これまでの通院履歴などは生まれた時から時系列で一元情報管理され、データベースに収め

られているため、急な病気
になってしまっても、預け
先の施設では的確な対応が
できる。

多

世代交流を重視した
自治体の方針で、保育
施設と高齢者施設が同じ敷
地内にあるケースも珍しく
ない。週に1〜2度は子ど
もたちが高齢者施設を訪問
して、地域のNPO主催の
ワークショップと一緒に参
加する。週末には、地域の伝
統料理のレシピを高齢者
が伝授してくれる親子向け
のプログラムもある。こう
することで、地域の子ども
や親、高齢者どうしで面識も
生まれ、子育てに対する理解
や地域の子どもへの愛着が
育まれているようだ。この
地域は比較的、敷地に困らな
いため保育園の建設問題は
聞こえてこないが、都心で
はまだ敷地確保に頭を悩ま
せるエリアもある。私の子
ども、他人の子どもという
意識ではなく、地域で子ども
を育てるという意識がもつ
と高まれば、こうした問題の
解決策も見えてくるのでは
ないか、と妻は思った。

今

日は妹夫婦も集まっ
て、義父母の家へ遊び

にいく日だ。「健康寿命の延
伸から現役寿命の延伸へ」
と明確な方針を打ち出した
この地域では、65歳からの
セカンドキャリア、サード
キャリアを謳歌している高
齢者が実に多い。義父母も
もちろんその一員だが、多
世代交流が子育てに貢献す
るプログラムも多く実践さ
れている。「シニア・ジュニ
ア・プログラム」では多様
なスキルを持った高齢者が
ものづくりや農林水産業、
地域の伝統産業や技術を直
接教えてくれる。子どもの
年齢や興味関心に応じて
きめ細かなプログラムが用
意され、好きな講座はネッ
ト上で検索、予約もできる。
健康や安全をサポートする
スタッフも常駐しているた
め、子どものみならず、高齢
者にとっても安心だ。子育
て世帯は選んだ講座へ子
どもを預け、プログラムの
参加費を支払う。参加費は
システム内にデポジットさ
れ、それは高齢者講師の報
酬として支払われたり、施
設の設備や備品購入に使わ
れる。地域通貨の子育て版
ともいえるこの仕組みをこ
の地域は初めて実現した。

今

日はそのプログラム
の実施日だ。ものづく
りから料理まで多彩なプロ
グラムが用意されており、
会場も賑わいを見せている。
義父は参加している子ども
たちのアイデアで、「高齢者
見守りキット」を企画した。
この地域では、一人暮らしの
高齢者の家を地域の子ども
たちが回り、最近のできごと
や気になっていることを聞
きながら、健康維持や犯罪
防止のために活動するプロ
グラムを実施している。見
守られる立場だけではなく、
見守る立場に子どもが
立つことで、地域や人のこ
とをより深く知ることが
できる素敵な取り組みだ。
義母は親子ガーデニング
教室を開いている。身近な
ところで手に入る季節の草
花を使って、インテリアに
もなりそうなコンパクトな
ガーデンキットをデザイン
する。義母はいつも子ども
のアイデアに驚かされるら
しい。「この子たちは生ま
れた時からビジュアルに敏
感で、美しい風景やかわい
いアクセサリーの写真をた
くさん撮ってSNSで紹介
していたから、きっとデザ

インの感性がものすごく磨
かれているのね」と感心し
たように話していた。どち
らも人気講座で、子どもと
一緒にいることで活き活き
とする二人の姿を見て、改
めてこんな暮らし方をした
いな、と夫婦は思った。



これまでのキャリアを活かしたユニークな講座がたくさん。
地域の子どもに地域の高齢者が教えることで、
技や知識の伝承だけでなく、皆の子どもという意識が芽生える。



子どもと子育ては、 自分育ての道でもある

さまざまな
価値観が存在し
さまざまな
暮らしが営まれる
でもそこに
子ども目線を入れると
それが何のために
あるかがわかる
今を生きる子どもと
これから生まれる子ども
それは私たちの
未来そのもの



子育て環境を良くしてくれるデザインは増えた。
それをどう選択するかこそが大切だ。

遊

びに来た妹夫婦はもうすぐ生まれてくる子どものことも考えて、これからのライフデザインを思案している。夫の会社も、妻の会社もフレキシブルな勤務形態や在宅ワーク、育児取得についてはかなり積極的に取り組んでいて、このままの暮らし方でも十分、やっていけると考えた。兄夫婦にそのことを話すと、「多様な選択肢があることが一番大切だ」と言う。妹が「どういうこと?」と聞き返す。兄である夫は言う。「僕たちは子どもを育てているが、子どもにも育てられている。地域も同じだ。子どもが中心にいるとあらゆる世代の人間が活き活きする。ものづくりだってそう、僕は生産者であると同時に消費者でもある。消費者の立場に立てば、子どものことを思いやって、ものを選択する自由がある。自分の子どもは、社会にとっての子どもでもある。どちらか一方、大切な宝だ。だから社会全体で育んでいく必要がある」。

さらに夫は続けた。「子どもや子育てにやさしい製品や活動、仕組みは増えてきた。安全についても、安

心についても、利便性や快適性についても、確実にこの国は進化してきた。それはグローバルに見ても先進的で、海外にも広まっているにふさわしいクオリティだ。だからこそ、そこで生まれてくる時間や、価値や、仕組みをもっと海外も含めた子どものために、次の世代のために使わなければいけない。どの場所でも、どの組織にいても、その選択肢の最終決定者は僕ら自身なんだ。可能性は無限にある。子どもが健全に育っていくことは、僕たちみんなが希望と夢を持って生きていくことにつながっている。家族にとっても、地域にとっても、組織にとっても、国にとっても。だから、社会で子どもを育むことは大切だし、楽しいことなんだよ」。

妹

はその話に聞き入っていた。妹の夫も考え込むようなそぶりをしていった。しばらくして、妹がようやく口を開いた。「これから生まれてくるこの子が、私たちのこれからの人生のデザインを一緒につくってくれるのね。素敵じゃない。私たちも子どもにまだまだ育ててもらえるわね」。

キッズデザインが産声をあげてから12年。

発足当初に生まれた子どもは中学生になった。

このストーリーは2025年を想定しているが

ここに登場する製品やサービスは

その多くがすでにキッズデザイン賞を

受賞した作品であり、それをモチーフにしている。

その意味でこれは決して遠い未来ではなく

手の届く未来なのだ。その実現のためには

人々のマインドが変わることが重要だ。

それもまた「デザイン」である。

2018年に生まれた子どもが

小学生になるのが2025年。私たちはそれまでに

このストーリーのあるような社会を目指したい。



時が経ち、家族もそれぞれ自分の人生の道を歩んでいる。
多世代が共に支えあい、元気をもらいながら。そしてまた、新たな笑顔が増えていく。

第12回 キッズデザイン賞

受賞作品紹介

第12回キッズデザイン賞は
総応募数468点のなかから、
252点が入賞した。

幅広い分野・業種からの応募があり、
なかでもキッズデザインの視点が
特に優れたものに最優秀賞、

優秀賞、奨励賞、特別賞が授与された。

子どもを取り巻く課題をいかに捉え、
デザインの力でその解決に

どう取り組んだか、

作品概要とともにここに紹介する。



コンテンツから感じられます。

赤池 第12回からアプリケーション・サービスの分野が新設されました。子育て世代の親への情報発信や子どもが病

気になった時のカウンセリングなど、ICTを活用したサービスやメディアが子ども・子育ての分野でもたくさん誕生しています。これも単体でサービス展開をするだけでなく、まちづくりと融合していくのではないかと思っています。キッズデザインに基づき保育園や施設、集合住宅などのハードと、子育て支援サービスや小児医療などのソ

フトが、まちづくりの中に編集されていく。こうした融合や統合は、キッズデザイン賞が担うべき大きなミッションのひとつと考えています。

益田 キッズデザイン賞は今年で12回目になりますが、最近強く感じるのは、この制度が目指しているものは、「自分の子どもを自分で育てる」のはもちろんのこと、「すべての子どもを社会で育てていく」ための仕組みづくりだということです。子どもは、私たちの未来そのものです。子ども以外にわれわれの未来はない。今世紀の終わりには、おそ

らく100億に迫る人間が地球上にいて、そのほとんどが、今いる子どもとこれから生まれてくる子どもです。世代が交代していく時にそれぞれの民族やコミュニティが個別に子どもを育てるだけでは、環境的にも、経済的にもひずみが出てくるはず。世界中の皆で子どもを育てていくことができれば、それは素晴らしいことです。それをこの日本で、実験的にでも実践しようとしている、それがキッズデザイン賞であると思っ

ています。

赤池 外資系企業のシンポジウムでキッズデザインのことを紹介したところ、是非我が社もキッズデザインを勉強したいと話してくれました。キッズデザインを海外に広めていくことで、国際的なマーケットにもインパクトを与えることができます。先導的なキッズデザイン製品や施設をつくっているところが海外ビジネスと共存しながら、このデザイン思想を海外に広めて欲しいと考えています。

益田 私たちの知らない子どもたちの世界が、まだまだ海外にはあります。日本の子どもはかなり特殊な環境で育って

いますし、子育ての考え方も特殊な性格を持っていると思います。世界では多様な環境に多様な子どもが生きています。その子どもたちのことを知って、私たちが日本にいな

がら何ができるか、を考えていくことで、キッズデザインは今後も広がり続ける可能性があると考えています。

総評

12年という節目を迎えて、時代の流れが見えてきたように思う。これまで応募する側も審査する側も、子どもを守るということに気を配り、不備がないよう慮ってきた。しかし、今回子どもたちが高齢者を見守るという逆転の発想や、子どもの安全を考えると大人にとっての問題解決につながる可能性に出会うことができた。私たちは子どものことを考え続けることによって私たちの未来を形作っている。そのことを世界の子どもたちから学ぶ時代なのかもしれない。

審査委員長 益田文和

審査委員長 益田文和

インダストリアルデザイナー
オープンハウス 代表取締役

東京造形大学デザイン学科卒業。建設会社、デザインオフィスを経て、インダストリアルデザイナーとして様々な製品のデザイン開発、地域産業のデザイン振興など国内外のプロジェクトに関わる。1991年株式会社オープンハウス設立、代表取締役。

副審査委員長 赤池 学

科学技術ジャーナリスト
ユニバーサルデザイン総合研究所 所長

筑波大学生物学類卒業。(株)ユニバーサルデザイン総合研究所所長として、商品・施設・地域開発を手掛ける傍ら、(公財)科学技術広報財団理事、(社)環境共創イニシアチブ代表理事、(社)CSV開発機構理事長などを務める。ウッドデザイン賞、FOOD ACTION NIPPON AWARDの審査委員長を歴任。



最優秀賞 内閣総理大臣賞

QuickFree®

YKK株式会社

ファスナーのスライダー部品を改良することで、ファスナーの開製品の操作がしやすくなりました。操作性の向上によって子どもが一人で衣服を着脱することを助け、親も着せやすくなります。また、左右に一定の力が加わるとスライダーが外れてファスナーが開く解放機能を備えています。

検索番号：180513

■審査委員コメント：留めやすく、外しやすい、衣類用線ファスナーである。広い挿入口により、子ども自身でも、大人が着せる際でも装着しやすい。また、樹脂製スライダーの採用等により、一定の荷重でファスナーの結束が解かれるため、万が一の事故時の重篤化軽減も期待できる。

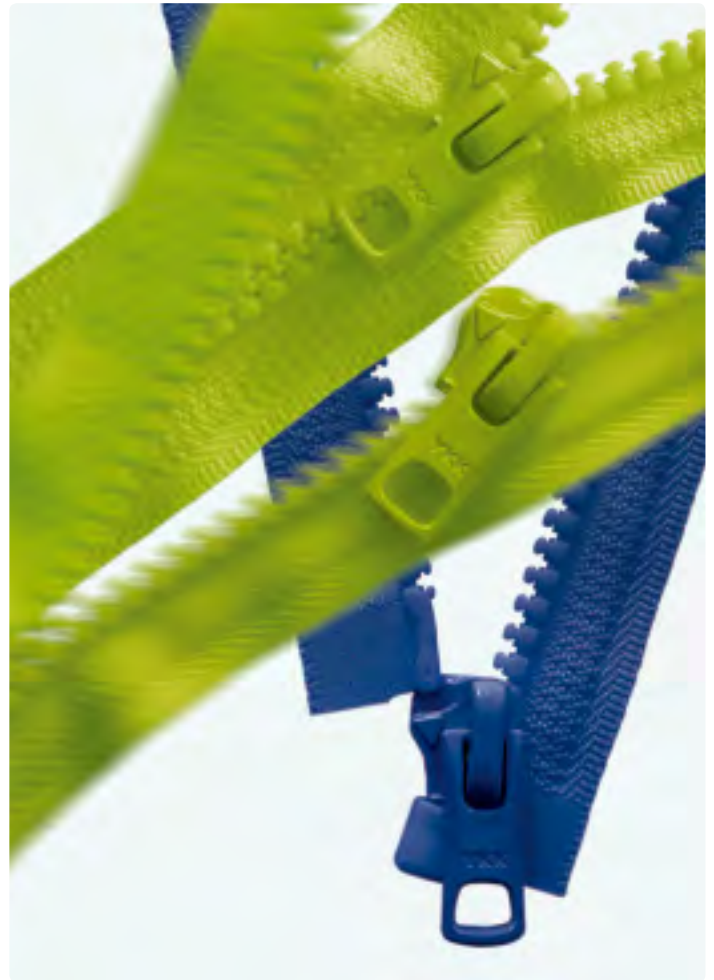
■受賞理由：子ども服のフードが、すべり台等の遊具やドアノブに引っ掛かることによる首絞まり事故は、状況によっては重篤化する可能性がある。子ども用衣料（ひもの安全基準）のJISが制定されるなど、官民あげての対策が進められているが、本製品はファスナーの改良という従来にないアプローチで、安全性向上に貢献するものである。荷重が加わっても外れない工夫に取り組んできたファスナーが、「外れた方がよい場合もある」ことに気づいたことでデザインと機能に新たな方向を示した好例である。多くの衣類や装具に採用されることでファスナーの概念を覆す可能性を持つ、最優秀賞にふさわしい取組である。

■購入・利用できる場所・方法：

YKK株式会社 顧客サービスグループ：0120-13-4128

安全で、操作しやすいファスナーでキッズデザインを広めたい

ファスナーは暮らしに身近な存在として、誰でも触れたことのあるアイテムである。子ども服にも使用されているが、細かな操作をする必要があるファスナーの開け閉めは、急ぎの外出の時などは手間取ることもある。子ども自身が開け閉めしやすく、親も着せやすいデザインを目指し、開発されたファスナーがQuickFreeだ。YKK株式会社商品開発部グループ長、小島昌芳さんは語る。「本製品開発のきっかけはキッズではなく実は、私の父でした。ブ



ルゾンを着る際、普段は掛けない老眼鏡を掛け、ファスナーの操作をしていました。ピンの挿入口が小さくて見えないんだよと言っていました。これをきっかけに、子どもにも服を着させるお母さんを観察したところ、最終的には操作できるものの、不便さを感じていることがわかってきました」。

操作性の向上と同時に、着目したのが子ども服のひもに関連する事故だった。服に付いたひもが滑り台や遊具の突起に引っ掛かったり、ドアに挟まれたり、自転車に巻き込まれたりして首が絞まってしまふ事故が報告されている。重篤性の高い場合もあり、最悪は命

の危険にさらされることもある。東京都による過去のアンケート調査では、約1200世帯のうち77%が子ども服のひもによるヒヤリ経験があり、そのうち6人に1人は実際にケガをしたという結果もある。

こうした状況を受け、JIS L 4129（子ども用衣料の安全性要求事項）が2015年12月に制定された。L 4129では、「頭、および首まわりのひもにおいて、垂れ下がっているひもを付けることはできない」「背中から出るひもは付けられない」等の基準が定められている。しかしこのJISでは、衣服の

フードは対象外だ。遊び盛りの子どもたちに、フードが引っ掛かって首絞め等の事故になるリスクは依然として残っている。実際に、東京都内で4歳の女児のパーカーのフードがドアノブに引っ掛かり、窒息状態となって入院する事故が起こっている。あるいは、子ども同士で引っ張り合っ

てケガをする事例が調査でも判明しており、フード付きのパーカーなどの洋服の着用を禁じている保育園も多い。この課題をどうするべきか、その答えを導く必要があった。「開発を始めた頃、子ども服の事故が相次いだこともあり、JIS L 4129が制定されました。このJISは主に子ども服のひもを対象にしており、引っ掛かりやすい部材は禁止というものでしたが、フードは対象になっていませんでした。フードは確かに引っ掛かりのリスクはあるものの、便利であることも事実です。私の住む北陸地方では、雨や雪が非常に多いので、ちょっとした距離であればフードをさつとくばせて移動させたりもします」。

操作性と安全性、この2つの課題を、子を持つ親として何とかできないかと開発に至った。

操作性については、通常のファスナーに比べ、3.2倍となった挿入口を設け、ピンを入れやすとした。これであれば、指先の細かな動きは不熟な子どもでも、自分でファスナーを開めやすく、自分で着る自信もつく。特に2歳から3歳頃は自我が目覚め始め、親が服を着せようとするのを拒んで、自分で着ようとする行動をとるよう

優秀賞

経済産業大臣賞

死角にいる子どもを守る、人間中心の設計思想に基づいた360°ビューモニター

マツダ株式会社

フロント・サイド(左右)・リアの4つのカメラを使ってセンターディスプレイに周囲の映像を表示し、ドライバーからは見えない領域の認知をサポートするシステム。ドライバーが直感的に理解できるよう、“人間にとって自然な見え方”と“効果的な見せ方”にこだわりました。

検索番号: 180091

■審査委員コメント: ドライバーが認知しやすい表示方法で、自動車の全周を確認できるモニターシステムである。駐車場等での子どもの巻き込みなどを防ぐとともに、ドライバーの心理的負担の軽減にも役立つ。身長の高い子どもが巻き込まれる痛ましい事故も多く、迅速な普及が望まれる技術である。

■受賞理由: 子どもが関わる自動車事故としては、走行時の飛び出しなどが想起されがちだが、駐車場や狭い道路での発進・後退時、低速走行時の巻き込み事故も多い。人気のSUVなど車高の高い車種では地面に近い位置など、運転席からの死角も多くなり、巻き込み事故につながるだけでなくドライバーの心理的負担も増す。本作品はこの状況に対する優れた課題解決提案である。同社の子ども視点かつドライバー心理に対する安全対策を体系的に進化させ続けている開発姿勢に共感する。

■購入・利用できる場所・方法:
マツダ販売店

運転席からの「死角」をゼロに。見えない子どもの姿を見る工夫

車に関連する子どもの痛ましい事故事例は、身長が小さい子どもが車の死角に入り込み、ドライバーが気付かずに進んで、巻き込み事故に遭う、というものだ。この「死角」に対して、解決策を提示した取り組みが「360度ビューモニター」である。マツダ株式会社統制御システム開発本部主査、中島康宏さんは言う。

「車には運転席から見えない死角があり、その範囲は想像以上に広いエリアです。子どもはしゃがみ込んでみたり、動き回ることも多



フロント・サイド(左右)・リアの4カメラでセンターディスプレイに周囲の映像を表示し、ドライバーの死角となる領域が認知できる。

く、容易にこの死角の領域に入ります。子ども特有の身体寸法や動きの早さが、車での送迎時や駐車場での出し入れ時の巻き込み事故や見通しの悪い丁字路での出会い頭の事故につながる可能性があります。このような場所での運転はお母さんや祖父母の方の心理的、肉体的な負担にもつながります。車を使っている、子どもや孫とのコミュニケーションの機会を妨げることになりかねません。

この課題を解決するために、「人間がクルマに合わせてクルマをつくる」という独自の人間中心設計思想に基づき、ドライバーが直感的に理解でき、自然な見え方にこだわ

る機能を徹底的に作り込んできた。

低速走行時には、人の操作に合わせてセンターディスプレイにビューを表示する。前進の際はビューボタンを押すと、周辺状況をトップビューに示すと同時に、進行方向のフロントビューを表示する。後進の際はトップビューとリアビューを同時に表示する。常に周辺状況を把握しながら、進行方向の状況を確認できるように車側が人間をサポートしてくれるのだ。ドライバーは車の状況に応じて、フロントワイドビュー、リアワイドビュー、サイドビューをコンソールのコントロールで簡単に選択できる。

「さらに体が小さく、気が付きにくい子どもをしっかりと認知するために、見せる範囲と画質の条件にこだわりました。子どもの認知のためには3つの要素があります。まず、子どもを子どもとして認識するか。2つ目が、子どもの相対位置関係で車からどのくらい離れているかがわかるか。3つ目が、子どもの相対位置の変化、動きがわかるか、です。車の周辺を映すカメラは非常に広い範囲をカバーする必要があります。そのため、魚眼レンズを使用しますが、これですと画像が大きすぎて、デジタル処理で修正できますが、代わりに画像のボケが発生してしまいます。ひずみが大きくなると、子どもの相対位置や動きがわかりにくくなりますし、ボケていると映っているものがわかりません。私どもは人間を研究する、画像処理を工夫することで、全てのビューモードでこの両立を実現しました」。

昨今、先進技術は多数登場しており、交通事故死者数は年々減少している。その一方で、駐車場での痛ましい事故例、特に小さい子どもの事故例はまだ多く存在しているのが現状である。同社は、MAZDA TECHNOLOGY FOR KIDSとして、車酔い対策や飛び出し・巻き込み事故の防止、チャイルドシート関連や心のゆとりをもたせた運転支援技術に取り組んできた。子どもの命を守ると同時に、保護者の心理的、肉体的な負担を低減できる「人間中心の車づくり」を今後も実践し、普及に努めたい、と中島さんは強く語ってくれた。

優秀賞

経済産業大臣賞

ウォーターサーバー FRECIOUS dewo

富士山の銘水株式会社

フレッシュ・デュオは、天然水を快適に飲んでいただくために、プロダクトデザイナーの安積伸が手がけた家庭用冷温水ウォーターサーバーです。給水ボタンはチャイルドロック機能だけでなく、上部に配置することで子どもの手は届かず、逆に大人には楽な姿勢で使用できます。機能性や使いやすさはそのままに、安全性にもこだわった製品です。

検索番号：180360



給水ボタンは子どもの手では届かず、やや上向きにすることで視線からも外れていらずに防止に。チャイルドロックも搭載。



軽量の7.2ℓバックで女性でも簡単に交換できる。



2歳児平均身長：
80～90cm

家庭に、安全でおいしい水を
提供するためのデザイン

ウォーターサーバー市場は2011年の東日本大震災以降、水の安全・安心、備蓄のために導入する一般家庭の増加で拡大してきた。その中で顕著になった問題のひとつが小さい子どもによるやけど、給水レバーのいたずらである。ウォーターサーバーは元来、業務・オフィス用が多く、海外輸入ものが一般家庭へ普及してきた経緯がある。経済産業省による調査では2歳以下の事故が87%を占め、1歳未満は14件となっているが、これは氷山の一角だ。実際にはこの数十倍、数百倍あると予測される。富士山の銘水株式会社開発部部長の溝内竜士さんは言う。

線から外れるようにしています。これにより子どもの安全性を確保しつつ大人にとって使いやすくなりました。

さらに、冷温水のチャイルドロック機能も搭載しています。従来品の給水レバーは簡単にロック解除できたり、複雑な機構を付けて本来のユーザビリティを損ねてしまう課題がありました。当社の給水ボタンはロック解除のボタンを付け、子どもにとっては解除が難しく、大人にとっては操作しやすいユーザビリティと安全性を両立しています。

その他にも、子育て世代に受け入れられやすいように、水バック自体も通常12リットルあるガロンボトルではなく、7.2リットルの交換が簡単なバックを開発した。女性の交換率が約6割という現状から、軽く、使用後はコンパクトなごみで済む。法政大学との共同研究も進め、数値的な裏付けも行った。溝内さんは語る。

「小さな子どもがいる場合、夜泣きの時にすぐに調乳したいというニーズがあるため、調乳にふさわしい70度をキープするエコボタンの設置、赤ちゃんを抱きながら哺乳瓶をトレイに置き、ボタンを押すだけで調乳できる機能も盛り込みました。寝室にも置ける静音設計や常に衛生的な水を提供するフレッシュ機能も盛り込んでいます」。

公共や商業施設にもウォーターサーバーを設置する施設が増えつつあり、こうした製品の普及が安全な子連れ外出を促進する。子育ての暮らしのシーンに寄り添う、細やかな配慮がある良質なデザインと言えるだろう。

■審査委員コメント：やけどなどの事故が発生している従来機種は構造的な問題点をいち早く解消した先行製品である。操作部の位置を、事故に遭いやすい年齢層の子どもが背伸びしても届かず、かつ大人が扱いやすい高さに配置することで、安全性と利便性を両立している。

■受賞理由：近年急速に普及した冷温水ウォーターサーバーは、ミルクを作る需要から、一般家庭へ急速に普及しているほか、商業施設の授乳室等への設置も増えている。反面、いたずら盛りの子どもの手の届く位置に、80度以上のお湯が出る操作部がある機種も多く、やけど事故が発生している。本製品は、事故の多い2歳程度までの子どもの目線から見えない高さに操作部を設定し、大人にとっての使いやすさと子どもへの安全性を両立させた。以降のシリーズ化も含め、安全対策の先事例として評価した。

■購入・利用できる場所・方法：

フレッシュお客様サポートセンター：0120-800-026

公式申し込みサイト：

<https://www.frecious.jp/dewo/>



優秀賞

経済産業大臣賞



MESH

ソニー株式会社 MESHプロジェクト

MESH(メッシュ)は、様々なアイデアを形にできるツールです。センサーやスイッチなどのブロックと身近なものを組み合わせ、プログラミングによって仕組みを作ることができます。これからの時代に必要な、新しい仕組みを生み出す創造力や、身の回りの課題を解決する思考力などを、手を動かしながら楽しく身につけていくことができます。

検索番号: 180515

可能性は無限、つくりたいものが形になる未来のキット

カラフルでコンパクトなブロックを組み合わせるだけで、人間の五感と感性を刺激する様々なツールが簡単にできる、そんな夢のようなキットがMESHである。すでに発売から3年を経過し、熱烈的なファンも多いのでご存じの方も多いだろう。さまざまなセンサーを搭載したブロックと身近なものを組み合わせ、アプリで直感的につなぐ。ブロックごとに機能が異なり、LEDブロックはいろいろな色に光るLEDライト、人感(Motion)ブロックは人の動きをスイッチとして使う仕組みがつけられる。ほかにも、周りの温度湿度の変化をスイッチとして使うブロックや周りの明るさの変化をスイッチとして使うブロックなどが用意されている。ウェブにある活用レシピを見ると、「植物に話しかけると自動的に水をやる装置」「鍵かけ忘れ防止装置」「ケースを転がすだけで室内の灯りの色が変わる装置」などその可能性は無限大である。ソニー株式会社MESHプロジェクト、プロジェクトリーダーの萩原丈博さんは語る。「MESHはアイデアを形にできる発明キットで構成として、無線でつながるブロック、プログラミング画面、ソフトウェア機能の3つがあります。無線でつながるブロックは現在7種類あり、非常に小さく軽く、扱いやすいのが特徴です。それぞれが無線でつながり、タブレット等の画面上で直感的につなぐだけでプログラミングが作れます。プログラミング経験がなくてもできますので、4歳のお子さんがMESHで作っているとお客様から聞いたことも。カメラやマイク、スマートフォンやタブレットの機能、インターネットにもつなげることができます。開発にあたっては、テクノロジーを文房具のように扱えるようにしたいという思いがありました。現代はコンピューターやインターネットなど多様なテクノロジーが生活の身近なところへ溢れています。この先もこれらが増えていく中で、日常生活とコンピューターを身近に関連付けられる、創造的なツールが欲しいと考えました。例えば、ハサミや定規、紙、鉛筆などの文房具のようにアイデアを形にできるものをイメージし作り始めたのが最初です」。MESHの意味はMake、Experience、Share(つくる、体験する、共有する)であり、これらが網のようにつながっていくというコンセプトだと言います。3時間もあれば、これまでプログラミングを行ったことがない小学生でも、課題抽出、解決策の制作から発表までできるため、アイデアを共有できる手軽さも魅力だ。ウェブサイトのほうでは、小学校から中学校、高校、大学まで幅広くいろいろな事例をウェブサイトで公開している。昨今、プログラミング教育が盛んに行われている。しかし、重要な点はそのプログラミングがもたらす生活や五感へのメリットではないだろうか。つくりたいものからプログラミングをイメージし、組み立てていく。ツールは人のためにある、という最も根本的なことをMESHはやさしく、楽しく教えてくれる、そんな思いを抱かせる。



無線でつながるセンサーなどブロックを画面上で接続するだけで、自分のアイデアを直感的に作れるユニークなキットだ。

■審査委員コメント: 2015年以来、豊富なワークショップの開催実績を有するプログラミングツールである。無線でつながるさまざまな機能をもったブロック同士をタブレット上で組み合わせ、視覚的にプログラミングを行うことで、物理的な配線の制約を受けずに何度でも試行錯誤ができる。

■受賞理由: プログラミング教育やデバイス教育を企図したツールは数多く生み出されているが、デバイスとプログラミングを組み合わせ、人間の感覚や身体性をも取り込みながら、ITリテラシーや問題解決能力を育むツールとして評価した。社会を取り巻く課題は複雑化、業態化しており、「ありたい姿」を考え、そこに向かって知恵や技術を駆使していく力が求められる。子どもたちが思い描いた形ができたときの感動は、AI時代にさらに求められるクリエイティブマインドの原点となる。

■購入・利用できる場所・方法:

MESH公式サイト: <http://meshprj.com/>

購入ページ: <http://meshprj.com/jp/tag/>

問い合わせフォーム: <https://goo.gl/b4XNvr>

優秀賞

経済産業大臣賞



桃太郎という誰でも知っている童話を題材に、多様な課題解決の方法を探るユニークなアプローチの授業。



■審査委員コメント：桃太郎という誰もが入りやすい題材を使い、相手の立場に立つこと、広い視点で物事を考えることを体験的に学べて、創造性にもつながる。一般に開放された学習指導案とツールを使って誰にでも授業が進められるなど、プログラムとしてもよくデザインされている。

■受賞理由：3コマで構成される授業は別の立場に立ち、異なる視点があること、解には多様な選択肢が存在すること、物語の続きを創造することがテーマになっており、まさに社会の縮図と言えるものだ。中学生がSNS、いじめ、暴力などの社会課題に向き合うために、多面的な視点で物語を捉えなおす活動であり、ワークショップ形式を取り入れ、自分ごと化しやすくする仕掛けも工夫されている。他の物語や寓話でも展開できる拡張性も期待できる。

■購入・利用できる場所・方法：

実施場所：基本は全国の中学校（集会場でも実施経験あり）
参加条件：基本はどなたでも。実施される内容を伺い、授業キットをご提供しています。

申込方法：博報堂、シンク・ジ・アース、谷本教諭の3箇所の窓口
博報堂広報室：03-6441-6161

みんなで考える桃太郎

～新聞広告から生まれた中学校の道徳授業～

株式会社博報堂／一般社団法人シンク・ジ・アース

「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」という新聞広告をもとに、中学校教諭と広告クリエイターが協働し「みんなで考える桃太郎」という道徳授業を考案。生徒同士が対話で思考を深め、異なる視点から物語を見つめなおすワークショップ型授業である。現在、岡山県や東京都の中学校で実施されている。

検索番号：180381

桃太郎は鬼退治をしなければいけなかったのか？

「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」という見出しがとても印象的な新聞広告から生まれた中学校の道徳授業「みんなで考える桃太郎」は、生徒同士が対話で思考を深め、異なる視点から「桃太郎」の物語を見つめなおすワークショップ型授業である。このプロジェクトはどのようなきっかけで生まれたのか、株式会社博報堂統合ブランング局コピーライター、山崎博司さんに聞いた。

た。当時かなり話題になり、岡山県の中学校の先生からこれを基に絵本を作り授業を行いたいという電話がありました。絵本のみでは一つの議論を導いてしまう恐れもあると考え、一緒に授業を作りませんかと提案しました。

今の子どもたちを取り巻く環境には、いじめや暴力といった社会問題、多様性への理解など多くの課題がある。そこで、相手の立場に立つて考える力や広い視点で物事を判断する力を養うべき、と考えた。アプローチは「対話的な学びの中から生徒が考え、議論する道徳授業。日常生活においても幅広い視野を持つことの大切さに気付いてもらいたい、と取り組んだ。

とき、桃太郎という話はどう見えるかを考える授業です。クリエイティブツールとして、桃太郎や鬼、息子の鬼太郎という新しいキャラクターのサイコロも作りました。サイコロを使って桃太郎の物語を考え、鬼太郎という新しいキャラクターを入れ、桃太郎の物語がどう変わるかを考えてもらいます。

2コマ目は、「選択肢を持つ」。鬼太郎の視点に立ったとき物語がどう見えるか、桃太郎は鬼退治をするしかなかったのか、を考える授業です。桃太郎が鬼退治に行くことを決意するシーンでは、それ以外の選択肢はなかったのだろうか。おじいさん、おばあさんから鬼の話聞いたとき、桃太郎はどうすべきだっただろうか。全部で4つのシーンがあり、桃太郎たちは鬼退治を退治する以外に選択肢がなかったのかをグループワークで考える授業です。

3コマ目は、「未来を考える」。各自作文で桃太郎の続編を作ってみます。鬼に農業を教える、など思いがけないアイデアも出てきました。授業を通して良かった点は、桃太郎という題材によって、議論しやすくなった点、クリエイティブツールで対話を促し自分ごと化できた点だと思っています。

岡山県から始まった授業だが、先生を目指す学生のワークショップで活用されたり、東京都港区の学校で使われるなど広がりをみせている。2019年4月には全国の中学校で道徳が教科化される。そのプログラムの一助になればよいと思っています、と語ってくれた。

優秀賞 消費者担当大臣賞

コープデリの子育て応援

コープデリ生活協同組合連合会

コープデリグループは、大消費地と大生産地をつなぐ存在として、SDGs目標の「つくる責任 つかう責任」を重視。社会の子育て課題に対しては、「誰ひとり取り残さない子育て」をテーマに消費者・メーカー・産地・行政・諸団体を有機的に結び存在として、個々の組織では実現しにくい、きめ細かな活動を多岐に展開しています。

検索番号：180488



販売体験では、自らのアイデアで売り方も考え、お客さん呼び込む。

「つくる責任 つかう責任」を 自らの体験で学ぶ

私たちが普段食べているもの、使っているものの「来し方行く末」を知ることが、健全な消費行動を促す上でとても重要なことである。子どもたちにそれを伝えたい、という思いから生まれたのが本取組である。コープデリ生活協同組合連合会執行役員（コミュニケーション・CSR）の山内明子さんは語る。

「コープデリグループは都部部の大消費地と周辺の生産地をカバーし約485万人が加盟する1都7県の7つの生協とその連合会で成り立っています。最近では事業と活動を通じて、SDGs（国連の持続可能な開発目標）の実現への貢献、特に12番目の目標「つくる責任 つかう責任」のテーマを大切にしています。消費者、メーカー、生産者、行政、その他の関係者をつなぐ役割を担い、各組織では実現しにくい活動やコミュニケーションに取り組んでいます。2つの取り組みを紹介します。1つ目が、『茨城を食べよう！キッズ・マルシェ』。キッズ・マルシェは、子どもたちが県内産の野菜について学び、販売を体験するプログラムです。数年前、食育活動で子どもたちに好きな料理を聞いたのですが、料理ではなくお菓子の名前を答える子が複数いてびっくりしました。活動を始めた10年前と比べ、食に関心がなく、野菜や果物を食べたことのない子どもも多いという状況が見えてきました。これを解決したいと考え、茨城県や小学校、JAグループの力を借りてプログラムを作りまし

た。2時間ほどのプログラムはまず学びから始まります。食品が多くの人の手を経て生産され、加工され、運ばれて、ようやく自分たちの食卓に届くことや、現在の食料自給の状況、多くの食べ物が廃棄されている現実も学びます。

続く販売体験では原価割れの価格が付けられないというルール以外は自由だ。子どもたちはチームメンバーと一緒に、目を引くポップをどう作るか、売りとなるセールの文句は何か、を考え販売に臨む。チームで競争もするが完売チームは他チームの応援に回り、売り切るために助け合う。初めは小さな声しか出なかった子どもたちも次第に大きな声が出るようになり、野菜が売れ始めると目がキラキラしてくる。子どもたちの笑顔を見るときとても頼もしく、嬉しくなるようだ。

「2つ目は、新潟県村松産の特別栽培米こがねもちの取り組みです。もち米の田植えから稲刈りまでを経験し、工場見学では食品と生産者への理解を深めます。おもち作りを通じて、子どもたちに日本の農業の現状や産地のことを知ってもらいたい、というパイヤーの思いから始まりました。学びだけでなく、生産する側も直接消費者と接点を持つことで大いに励まされ、生産の喜びを再確認できます」。根底にある思いは、生協の使命である「より良い社会のために」であり、それこそが子どもたちが安心して暮らせる社会の実現である、と山内さんは言う。「これからSDGsの実現を目指し、子どもたちの未来のために、生協だからできる子育て応援に取り組んでいきます」。

■審査委員コメント：産地見学・生産体験イベントから食物アレルギー講習会、子ども食堂の運営、組合員同士の家事援助まで、生産者と消費者をつなぐ立ち位置を活かした多様な取組を面的に展開している。それぞれのプログラムが個別に応募されてもおかしくないクオリティである。

■受賞理由：SDGsの目標のひとつ「つくる責任 つかう責任」は消費者教育と密接につながるものである。1都7県にまたがるこのグループの子育て支援活動は多岐にわたるが、なかでも一年間にわたって米から餅になるまでを学ぶ生産体験、野菜の収穫、出荷、販売を体験できる産地見学イベントなどは食品の生産プロセスと消費の在り方を学ぶ良質なプログラムである。地方生産者の子どもたちによる都市での販売体験など、多面的な生産者と消費者との関係づくりに取り組む姿勢も社会的提案性が高い。

■購入・利用できる場所・方法：

主な情報は、コープデリ連合会のHPや各媒体で公開。サービスは、一部を除き生協（コープデリ）に加入して組合員になることで利用可能となる。

コープデリ連合会 コミュニケーション推進部：

048-839-1430



自らの手でもち米の生産から体験することで食の現状を自分事として学ぶ。

■審査委員コメント：信頼性の高い情報が豊富に用意され、即時性の高い無料相談対応など、リアルとバーチャルの組合せのバランスが良くできている。情報量が多いと必要な情報を見失いがちになるが、専門家からのメッセージが毎日届くなど、適時適切な情報が届く工夫もなされている。

■受賞理由：情報サービスの多様化により、利便性向上の一方で信頼できる子育て関連情報がどれなのか分からず、不安を募らせてしまうという逆行現象が起こっている。本作品の特徴は、デジタルとアナログをバランスよく組み合わせ、助産師、管理栄養士など、子育てに近いプロフェッショナルが直接答えてくれる点にある。即時性と信頼性の高い情報を入手でき、ユーザー数も多く、SNS時代の子育て層にとって心理的側面の支援になる有効なサービスである。

■購入・利用できる場所・方法：

App Store、Google Playストアにて利用可能



子どもたちを産み育てやすいデザイン 個人・家庭部門

優秀賞

少子化対策担当大臣賞

ベビーカレンダーアプリ

株式会社ベビーカレンダー

「ベビーカレンダーアプリ」は、妊娠中のプレママ・子育て中のママとパパに医師・専門家監修の安心かつ信頼できる妊娠・出産・育児の情報を提供することで、ママとパパが安心して赤ちゃんを産み、笑顔で子育てできるようサポートをします。

検索番号：180044



初めての妊娠、出産、子育ての疑問や不安を、タイムリーに専門家と直接やり取りできるネット時代ならではのサービスだ。

情報過多の時代だからこそ、信頼できる情報を届けたい

現在、日本国内の妊婦、0〜2歳の子どもを持つ母親は約240万人と言われているが、その中であってユーザー数150万を誇るメディアがある。「ベビーカレンダー」だ。妊娠や子育てに関する情報の入手方法は今やほとんどがスマートフォンによる。株式会社ベビーカレンダー取締役の福島智晴さんは言う。

「ベビーカレンダーは妊娠、出産、育児のメディアアプリです。数千を超える医師または管理栄養士など、専門家監修の記事コンテンツやレシビ、専門家自身に直接相談ができるサービスを用意しています。日々、妊娠、出産、育児の生活を送られる方に対し、笑顔で過ごしていただけるようなサービスを心掛けています。メインコンテンツの「日めくり」は、登録した出産予定日、赤ちゃんの誕生日に基づいて、日替わりで必要な情報をプッシュ型で提供しています。ネットの黎明期が過ぎ、情報が溢れている時代。初めての子育て層、経産婦はあまりアクセスしなかった医療情報の入手や選択に困る方も多い。そうした方へ専門家の信頼できる情報を届けたくて、この事業を立ち上げました。すでに3年が経過していますが、日々改善を続けています」。主要コンテンツである専門家相談は、インターネットならではのいつでもどこでも使える点が好評だ。現在は助産師、管理栄養士の2ジャンルの専門家コナーがあり、1営業日中は相談の回答をするよう心掛けています。月間約1000件の相談が寄せられ、国内のみならず海外在住の方からも相談がある。今後はさらにユーザーの多様な質問や相談に答えられるよう、専門家のジャンルを増やし、即時性を高めるため、専門家の増員を図っていくと言う。福島さんは続けた。

「相談コナーの専門家からは、『妊婦さんやお母さんたちの気持ちに少しでも寄り添い、実際にお会いしているような気持ちでやりとりさせてもらっています。気軽に相談する所がない方にも、この相談コナーを利用していただくことで、少しでも抱えていた不安や悩みが軽減して、その分、気持ちに余裕が生まれたり、いい変化が起こるように思えます』。『私は子育て中の、食に関する相談に答えています。特に離乳食をどう進めてよいかわからないといった相談が多く寄せられます。子育て中の皆さまが、この相談コナーを利用することで、少しでも子育ての悩みや不安が解消し、前向きな気持ちになっただけだったら嬉しいですね』といった声をいただいています。まだまだ展覧途上なメディアです。今後はさらに行政、各企業、専門家の方々と協業し、より良いサービスをつくらせていきたいと考えています」。

メディアを運営する上でのコンセプトは、「赤ちゃんの笑顔でいっぱい」。赤ちゃんや家族、地域の人々も笑顔になる世の中をつくりたいという思いで日々コンテンツ作りを進めているそう。子育て層にできる限り、寄り添っていく、共感されるサービスが広がることを期待したい。

優秀賞 少子化対策担当大臣賞

ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木

積水ハウス株式会社 / 株式会社ネス・コーポレーション

定員200名の江東区の認可保育園。敷地は門前仲町駅に近く首都高速9号深川線の高架下にある。建築前は樹木が鬱蒼と茂り、公園内は閑散としていたが、高さ15メートルを超える数本のケヤキの巨木があった。これらを「土地の記憶」として残し、ここで育つ子どもたちが木の存在を身近に感じられるよう「ケヤキを囲む園舎」を計画した。

検索番号：180297



シンボルのケヤキ。街とつながり、街と交わる保育園を目指した。

地域に溶け込み、地域の財産
になる保育園のデザイン

2018年度の東京都の待機児童数は全62市区町村の合計で5414人、保育園に入っている子どもの数は前年度から1万6千人増であることを考えると、待機児童対策は少しずつ前進していると考えられる。だがその一方で、敷地の確保や周辺住民との合意形成は未だ課題も多い。積水ハウス株式会社商品開発部 建築事業開発室部長の板橋茂さんは語る。

「ベリーベアー深川冬木は首都高速9号線（深川線）と門前仲町駅から徒歩5分の場所に位置しています。ここは問題点の多い敷地でした。まず東西に分断される180メートルを超える細長い土地、高速道路下、さらに高速横の公園には鬱蒼と暗い森が茂っていました。町の人々から愛されるためにどう保育園があるべきか、まちづくりの視点からデザインを考え、敷地にあったケヤキの巨木を土地の記憶として残し、ケヤキを囲む園舎を計画しました。コンセプトは、『町をつなぐ保育園』。向き合う、感じる、交わる、開くという4つの場所を考えました。『向き合う』では、北側の道路に面した場所にあえてフェンスを設けず、植栽と保育園をつないだ。通りからは園児たちの楽しそうな様子が見え、園児たちは通りを眺められる。『感じる』は高速道路下の通路になる部分に園庭を配置し、通過する人々が保育園を感じられる雰囲気をつくった。『交わる』は難題だった。公園の一角であったこの場所で東西の道

路を行き交う住民がいて、敷地が分断される。町の通路と園のエンタランスを共存させ、地域と園が関わり、交わる計画とした。『開く』では、分断された反対側の土地を園庭として利用し、保育園とセキユリティーを分けることでイベントを実施したり、町の開かれた場所としても活用できる。

子どもたちの図書コーナー、ままごとコーナーは杉の木でつくられ、玄関ホールから続く階段が園の中心となってランチルームに続く。園庭では既存の木を切り、皮をむき、遊具にして子どもたちが遊んでいる。板橋さんは語る。

「私たちが考える保育園は、子どもの健やかな育ちの場だけではなく、子どもを通じた地域の賑わいやコミュニケーションが創出できる場と考えています。保育園をつくることで、町の雰囲気、関係性が変わる。保育園づくりから町を活性化させる、地域資源としてのデザインを心掛けています。空間設計では、五感に働きかけ、子どもたちが生き生きと過ごせるような保育環境をこれからも届けたいと思っています」。

子育ては家庭だけの問題ではなく、地域で考える問題であることは巷でも喧しく言われている昨今である。空間の使い方もさることながら、地域にとって子どもの存在がとても大切な財産であること、子どもを見守る眼が地域で育つことで地域もまた安全になること、そして子どもの元気が地域をさらに元気にすることは、保育園のデザインというアプローチからでも具現化できる。その良質なモデルケースをこの園に見ることでできるのではないだろうか。

■審査委員コメント：高速道路高架沿いの長大な敷地を活用することによって、都市部における保育園整備の重要課題である待機児童の多さと敷地問題を一挙に解決している。既存の植生を取り込みつつ、地域との関係性を重視した開放された空間づくりなどに、細やかな気配りも感じられる。

■受賞理由：子育て世帯の増加著しい都市部では、保育園に適した敷地は限られ、近隣住民との関係性なども含め、待機児童対策を阻む様々な障壁がある。本作品は高速道路高架沿いの全長180メートルを超える緑地帯を活用し、「街に開く」「自然を感じる」のテーマを空間環境としても、運用としても見事に実現させている。園児、親、先生のみならず地域住民との交流プログラムは「地域で見守り、子育てする」ための都市型保育園の優れたモデルケースとして非常に参考になる。

■購入・利用できる場所・方法：

<https://www.sekisuihouse.co.jp/mail/form.html>



起伏のある園庭は子どもたちが自由に遊びを考え楽しむことができる。

■審査委員コメント:子育て世帯にとってはスペースの確保が難しいキッチンにも適したコンパクト設計に、レンジとグリルの自動リレー機能を有し、食材を並べボタンひとつで調理可能な共働き世帯、男性の家事参加の強力な味方になる時短家電である。

■受賞理由:家事参加の意欲がありながら、料理には躊躇する男性の中には、失敗を恐れ自ら心理的なハードルをつくってしまうケースも多い。小型でありながら、レンジ、オープン、グリルの3つの機能をストレスなく連携する調理器が料理を身近なものに変え、日々の簡単な夕食であれば作ろうという気持ちにさせてくれる。共働き世帯の家事分担は気持ちの面ばかりが取り上げられがちだが、家電のデザインから提案している。男性の家事・育児参加をプロダクトサイドから支援する良質な取組と言える。

■購入・利用できる場所・方法:

三菱電機株式会社:

<http://www.mitsubishielectric.co.jp/home/rangegrill/>

子どもたちを産み育てやすいデザイン 男女共同参画部門

優秀賞

男女共同参画担当大臣賞

三菱レンジグリル(オープンレンジ) RG-HS1

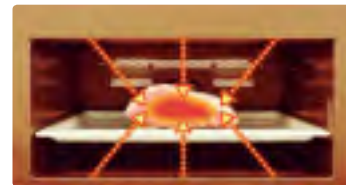
三菱電機株式会社

レンジとグリルが自動的に連携運転することで短時間で簡単においしく調理ができるオープンレンジ。料理が苦手な男性でも音声と光のガイドに従うだけで多彩なメニューを作ることができます。食卓に出せる付属の角皿を用いれば洗い物の時間も短縮し、充実した家族団らんの時間を増やします。

検索番号: 180127



角皿に材料を入れ自動調理、そのまま食卓へ。



レンジで中まで加熱、グリルで焼き色をつける。難しい加熱調理も失敗しない。

男でも失敗しない簡単調理で家族の時間を増やしたい

子どものいる共働き世帯の家事の役割分担は大切な決め事だ。しかし仕事の都合でなかなか予定通りにはこなせないなど、時間に追われる中でのやりくりには各家庭とも苦勞している。それに歩を合わせるように、家事支援家電も進化を続けている。三菱電機株式会社デザイン研究所ホームシステムデザイン部調理・家事家電グループ専任の桃島山青さんは言う。

三菱レンジグリルRG-HS1には特徴が3つあります。レンジとグリルが自動的に連携運転し、短時間で簡単においしく調理ができる、料理が苦手な男性でも音声と光のガイドに従うだけで多彩な料理ができる、食卓に出せる付属の角皿を用いれば洗い物の時間も短縮できる、の3点です。開発の狙いは、『男性の調理参加』。調理を簡単にすることで、女性の家事負担を軽減し、充実した家族団らんの時間と多彩で豊かな食生活で子どもを育む家庭をつくれれば、と考えています。

調理機器を開発する上で、現状の調理環境がどうなっているかを調べた。今回のターゲットである共働き家族は増加しているが、主婦の3人に1人は家事の分担に不満を持っている、60%が夫にもっと参加して欲しいと思っている、という調査結果がでた。特に調理は主婦の約6〜7割が担っており、夫の貢献が低いのが現状。女性のさらなる社会進出には、男性の調理参加が必要で、そのためには調理が苦手な男性でも失敗せずに作

れることが大事、と考えた。

製品の一つの特徴がリレー調理だ。レンジで食材の中に火を通し、グリルは後から表面に焼き目を付ける。生焼けや焦げ付きなどの難しい加熱調理を失敗せず簡単にこなせるようにした。調理時間も30%から50%短縮できる。調理時間が短い分、子どもに早く夕飯を出せて時間の余裕が生まれる。桃島さんは続けた。

「もうひとつの特徴が、簡単調理と簡単再加熱です。例えば、『鶏とたっぷり野菜の簡単カレー』は具材を切り、ボウルに入れ、レンジグリルのボタンを押すだけで出来上がりますし、市販惣菜の温めなおしも簡単に手軽に一品追加できます。ホワイト角皿は調理して、そのまま卓上に出せるので洗い物の手間が省けます。音声ガイドは操作のナビゲートだけでなく、調理の終了時に親しみやすい言葉で話し掛けてくれます。これは、男性の調理のモチベーションが途切れないように、と考えたアイデアです。」

男性の積極的な家事参加によって共働き家族でも家事分担が適正になり、働く女性が輝く社会づくりへの貢献ができる、との思いを語ってくれた。時間に余裕が生まれることで、夫も妻に任せきりであった子どもの健康や教育などに関し、積極的に参画できるようになり家族間のコミュニケーションが深化する。

「そして最も大切なことが、父親が家事をしている姿を子どもが見ることによって、家事は平等に行うという意識の醸成です。これが次世代に受け継がれることを期待しています。」(桃島さん)。